

補 足 (評 価 の 定 量 化 に つ い て)

資料 1

評価軸	評価の考え方	従来の代替案検討 1	評価の定量性について 2	定量化の例 3
安全度 (被害軽減効果)	河川整備計画レベルの目標に対し安全を確保できるか			安全を確保することができる洪水の規模を年超過確率 (1/) や対象流量 (m ³ /s) で表示する
	目標を上回る洪水等が発生した場合にどのような状態となるか	-		目標を上回る洪水によって氾濫した場合における浸水面積 ha、浸水区域内人口 人、浸水深 m、浸水継続時間 時間
	段階的にどのように安全度が確保されていくのか (例えば5, 10年後)	-		地点における安全を確保することができる洪水の規模が、現状で1/、5年後に1/、10年後に1/ (又は現状で m ³ /s、5年後に m ³ /s、10年後に m ³ /s)
	どの範囲で どのような効果が確保されていくのか (上下流や支川等における効果)			地区 ~ 地区の区間においては、安全を確保することができる洪水の規模が、1/ から1/ に向上 (又は現状で m ³ /sから m ³ /sに向上)
	これらについて、流量低減、水位低下、資産被害抑止、人身被害抑止等の観点で適宜評価する。			
コスト	完成までに要する費用はどのくらいか			年度までに約 億円
	維持管理に要する費用はどのくらいか	-		約 億円/年
	その他 (ダム中止に伴って発生する費用等) の費用はどれくらいか	-		約 億円とその内訳
	なお、必要に応じ、直接的な費用だけでなく関連して必要となる費用についても明らかにして評価する (P)			
実現性	土地所有者等の協力が得られるか			要補償面積約 m ² 、移転家屋数約 世帯、移転事業所数約 件
	その他の関係者等との調整が可能か	-		橋梁 基、堰 基に関する 者の関係者が存在
	法制度上の観点から実現性はあるか	4	-	
	技術上の観点から実現性はあるか	4	-	
持続性	将来にわたって持続可能といえるか	-		河道の形状を維持するために継続的に掘削する必要がある場合、圃場整備との調整など残土の搬入先等を確保して、処理すべき土砂量は約 万m ³ /年
柔軟性	地球温暖化に伴う気候変動や少子化等、将来の不確実性に対してどのように対応できるか	-	-	
地域社会への影響	事業地及びその周辺への影響はどの程度か			影響範囲は、要補償面積約 m ² 、移転家屋数約 世帯、移転事業所数約 件
	地域振興等に対してどのような効果があるか	-		
	地域間の利害の衡平への配慮がなされているか	-	-	
環境への影響	水環境に対してどのような影響があるか			工事の実施・ダムの供用に伴うSS、BOD等の変化予測
	生物の多様性の確保及び流域の自然環境全体にどのような影響があるか			注目種のハビタットの改変面積割合
	土砂流動はどうか変化し、下流河川・海岸にどのように影響するか			下流への土砂供給量の変化の程度
	景観、人と自然との豊かな触れ合いにどのような影響があるか			触れ合いの場の直接改変の有無、アクセス時間の変化、アンケート結果
	その他	-		
流水の正常な機能の維持への影響	流水の正常な機能が維持できるか			正常流量 m ³ /sのうち × × m ³ /sの確保
利水事業への影響	水資源の確保を行うことができるか			水道用水 m ³ /日の確保

1 : これまでよく行われている、 : 行われている場合がある、- : ほとんど行われていない

2 : 原則として定量的評価を行うことが可能なもの、 : 主として定性的に評価をせざるを得ないが、一部の事項については定量的な表現が可能な場合があるもの、- : 定量的評価が困難なもの

3 各評価軸について、仮に定量化する場合に、どのような例が考えられるかを示したものである (定性的に評価せざるを得ない評価軸についても、一部の事項について定量的な表現が可能な場合があるものを含む)。

なお、個別のダムの検証に当たっては、どの評価軸についてどのように定量化を行うか等について、河川や流域の特性、利用できるデータの制約等を踏まえて検討し、評価を実施していく必要がある。

4 これまで、法制度上または技術上の観点から実現性が乏しい案は代替案として検討しない場合が多かった。